記念アトラクション

60番目のまくら貝

出演者と観客が一体となり「次世代につないだ一丸精神」

（京子）波の音がするよ。でも他の貝と一緒だよ。
それしか聞こえない。ごっが悪いのかなぁ。
（竹造）そん波の音ん向ごうよさ。かすかに聞こえっこんか？

（京子）あっ、遠くに聞こえる！
（竹造）聞こえっきたどが、軍艦マーチが！

※市民一丸となり創り上げた「60番目のまくら貝」。枕崎の歴史や文化、人情などを表現したこの創作劇をDVDに収録したものを市役所で貸し出しする予定です。準備ができ次第「広報まくらざき」でお知らせします。

■京子役を見事に演じた田中みなみさん（高校1年）に出演した感想を聞きました。

京子を演じて

枕崎の私が枕崎の人間を演じたのですが、いかに枕崎の人間らしく演じようかと悩みました。本番、どれだけ演じられたかわかりませんが、自分では枕崎市民の皆さんと一緒に、最高の舞台ができたと思います。

“枕崎に生まれて良かった”
そう思いました。

五幕：希望　マリンコーラス／コーロ・フェリーチェ／市内中学生

六幕：熱気　ちゃんサネ／枕崎舞踊連合会

七幕：返波　劇団ぶえん

八幕：一丸　市民歌大合唱

一幕：プロローグ　ARTS／市内中学生

二幕：誕生　Lips／枕崎少年少女合唱団／枕崎千翔会

三幕：波　RENS／吾妻流藤波会

四幕：風　火の神太鼓／LCL

60番目のまくら貝から聴こえてきたのは…

劇団ぶえん
井上 昌己(いのうえ まさき)

1961年生まれ、日之出町。劇団ぶえんの副団長。サキエばあさんでご存知の方も多いはず。今回、初めて脚本を手掛けた。

市制施行60周年おめでとうございます。9月6日、還暦を迎えた枕崎市を祝うために、14団体・総勢250名が市民会館に集結しました。

今回、記念アトラクションの脚本・演出を担当させていただくに当たり、一体このまちをどのようなまちとして描けばいいのか、ということが最大の悩みでした。友人に聞いても明確な答えは返ってきませんし、将来のあるべき姿についても同様で混沌としていました。

そんなとき、まだ30代の頃、屋久島のある議員さんとお会いしたことを思い出しました。「私は枕崎の出身なのですが、市外の方は客観的にどういうまちだとご覧になっているのでしょう？」「うーん、大変失礼ですが、私どもには、若い頃からガラの悪いまちと見えました」しめた！と思いました。ともすれば、負との印象とうけとられるかもしれませんが、最大の特徴、ウリです。方言も浜言葉は鹿児島弁とまた違った、ガラの悪さがあります。大変な洞察です。以来、この言葉以外には一言で的確にこのまちを表す言葉を知りません。

そこで、このまちの歴史を綴るに当たり、**「ガラが悪いけれども人情に溢れ、進取の気象を持った、血気盛んなまち」**として描こうと思ったわけです。実際、私たちの先輩の行動を辿ってみると、熱気に溢れていました。

物語は、船を下りて引退した竹造じいちゃんと孫娘の京子の会話から始まります。ガラの悪さを出すために、竹造じいちゃんには庭先や道端に痰を吐いてもらいましたし、踊りのチームには、お客さんに向かって舞台の上からお尻を突き出して、挑発するかのごとく踊ってもらいました。

それだけではありません。見終わった後に、何かじわじわと心が動くような、そんな仕掛けとセリフを随所に詰め込んだつもりです。

九つの幕から構成された舞台には、「プロローグ」「誕生」「波」「風」「希望」「熱気」「返波」「一丸」「エピローグ」というテーマがそれぞれあって、二つ、あるいは三つの団体ががっちりスクラムを組んで、そのテーマを表現しました。みんなキラキラと輝いていて、素敵な舞台でした。私たちの思いと熱気は、皆さんの心に届いたのではないでしょうか。